

# 情報教育分科会

## I 研究のあゆみ

4月22日(月)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
5月中旬	研究計画の検討(1次実践の検討)	【グループ実施】
6月中旬	研究計画の検討(2次実践の検討)	【グループ実施】
7月17日(水)	研究内容の検討(これまでの実践の検討と研究のまとめ方)	【丸の内小】
8月29日(木)	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【丸の内小】
9月21日(土)	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

## II 研究協議の概略

「GIGAスクール構想」の実現によって、各学校におけるICT環境整備が急速に進んだ。また、学習指導要領総則においては、情報活用能力は言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。このような今日的な課題を踏まえ、ICTを活用して、子どもの情報活用能力を育てていく実践が報告された。

- シンキングツールを活用して情報を収集・整理し、分かりやすく伝える力を育む実践
- 自身の日常生活の関わりから情報モラルを高める実践
- プログラミング的思考を育む実践

## III 今後に残された課題

- シンキングツールを教員主導で、効果的に活用することができた。今後は、シンキングツールの有効性を子どもが理解し、様々な活動において子どもが主体的にシンキングツールを活用できるようにしていく必要がある。
- 情報モラル教育について、子どもを取り巻くインターネット環境の現状を正確に把握した上で、危険性を伝えていくだけでなく、正しく活用する力を高める必要がある。ICTのよき使い手になると同時に、よき社会の担い手になることをめざす「デジタル・シティズンシップ」の考え方を取り入れた手立てを追究する必要がある。
- プログラミング的思考を育むためには、継続的に指導をしていく必要がある。様々な教科の中で試行錯誤できる場面を設定し、効率性や最適化を子どもが意識できるようにしていく必要がある。